（別紙様式４）

令和8年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専修学校 沖縄ペットワールド専門学校	平成16年3月22日	成底　敏	〒900-0034 沖縄県那覇市東町19-20 （電話）098-861-1586
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人KBC学園	平成6年3月14日	大城　圭永	〒900-0025 沖縄県那覇市壺川3-5-3 （電話）098-835-4240

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年
文化・教養	文化・教養専門課程	動物看護・管理学科（3年制） （動物看護専攻）	平成27(2015)年度	－	平成30(2018)年度

学科の目的	動物業界に関わる職業人として、動物や自然に関する専門的な知識・技術・能力を身に付け、その知識に基づく実習・演習を通して実務に関する実践的な技術・技能を習得した人材を組織的に教育・育成することを目的とする。
学科の特徴（主な教育内容、取得可能な資格　等）	取得可能な資格 検定愛玩動物飼養管理士、愛玩動物看護師国家資格

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 127 単位	単位時間 89 単位	単位時間 4 単位	単位時間 34 単位	単位時間 0 単位	単位時間 0 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
180 人の内数	97 人	0 人	0 %	3 %

就職等の状況

■卒業者数（C）	29	人
■就職希望者数（D）	26	人
■就職者数（E）	24	人
■地元就職者数（F）	18	人
■就職率（E/D）	92	%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）	75	%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）	83	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

あかね動物病院、北谷動物医療センター、ネオベッツVRセンター

第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：　受審年月：　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ
当該学科のホームページURL	https://kbcgroup.ac.jp/pet/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間
うち必修授業時数	単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	127 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	6 単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位
うち必修授業時数	6 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	6 単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	6 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	3 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	人
計		3 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	0 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

①卒業生の主な就職先である動物病院・トリミングサロン・ドッグトレーナー・ネイチャー関連施設と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を習得した即戦力となる人材を育成する。
②動物看護・管理学科における学修の中心となる動物の世話と管理、動物看護・手術実習、しつけトレーニング、グルーミング理論・実習、海洋実習、環境調査・実習等の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の課程を明記

①学校の専門分野に関する業界動向、国および地域の産業振興の方向性、必要となる実務に関する知識・技術等から生じる専門学校の教育内容について意見交換等を行う事により、教育の質の向上をはかることを目的とする。
②教育課程編成委員会は、教育課程への意見を求める校長からの諮問に対し、教務責任者が委員長を務め、各学科責任者が参加することにより、企業等から提出された問題点の指摘や提言を次年度以降の教育課程（授業科目・授業方法・内容等）に反映させるべく討議を行う。
③校長は教育課程編成委員会設置規定に基づき、委員長からの意見（答申）を得て、次年度以降の教育課程の編成を行い、具体的な意見の反映の結果については、直近の委員会に報告する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
喜納　保	WOLVESHAND 沖縄事務局	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
翁長　朝	財団法人沖縄こどもの国　動物園課　課長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	①
槇本　峰	ミライノ合同会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
周本　剛大	琉球動物医療センター　院長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
大城　大樹	メイクマン浦添店　店長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
吉田　剛	沖縄ペットワールド専門学校　副校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	
仲松　謙	沖縄ペットワールド専門学校　部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	
儀間　秀人	沖縄ペットワールド専門学校　教務課長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	
山川　裕子	沖縄ペットワールド専門学校　教務主任	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	
山城　正仁	沖縄ペットワールド専門学校　教務主任	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年間開催数：2回（毎年8月・12月）
（開催日時（実績））
第1回　令和7年8月19日　16：30～17：30
第2回　令和7年12月23日　15：00～16：00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会より、飼い主への対応力強化や販売促進強化の内容について提言を頂いたことから、下記について強化を図る。
・企業実習の期間や日程を再検討
・ボランティア取り組み強化（自主性・積極性など）
・インターンシップ時の評価制度の取り組み強化

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

①企業との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
②企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等に実務の視点から評価を仰ぐ。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

上記方針を実現するために、教育課程における科目について、動物業界について専門的知見を有する企業と連携し、実務に関する実践的な技術・知識を習得するための臨床実習を行う。実際に企業にて業務の体験・実習を実施し、主に実践力（実務能力）を軸とした評価を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
動物看護 総合実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習 （4に該当するものを除く。	動物病院で看護実践を学び、病院内業務の補助を行う	琉球動物医療センター ペットメディカルセンター・エイル ながみねどうぶつクリニック あかね動物病院 おもろ動物クリニック
動物看護 総合実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習 （4に該当するものを除く。	動物病院で看護実践を学び、病院内業務の補助を行う	琉球動物医療センター ペットメディカルセンター・エイル ながみねどうぶつクリニック あかね動物病院 おもろ動物クリニック

動物看護 総合実習Ⅲ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。	病院内業務の補助を行い臨床現場でチーム医療の一員としての実践力を修得する	琉球動物医療センター ペットメディカルセンター・エイル ながみねどうぶつクリニック あかね動物病院 おもろ動物クリニック

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するため、関連する機関と連携して実務に関する知識、技術、技能の修得及び教員個々の教育活動上の役割を考慮し、指導スキルの向上を目的とした組織的かつ計画的な研修を行う。
①教育課程専門委員会に参画する企業等から講師を招いた実践的な知識・指導スキル研修
②教職員の能力向上および資質等の向上を図ることを目的とした研修等への派遣
③専門的かつ実践的な知識・技能・指導スキルを身につけるための研修等への派遣
④学校法人KBC学園教職員研修規定第4条、第5条に基づき必要な知識技術の研修を実施

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等
研修名「日本獣医内科学ｱｶﾃﾞﾐｰ学術大会」（連携企業等：一般社団法人 日本獣医内科学アカデミー（JCVIM））
期間：2026年2月21日（土）～22日（日）　　対象：動物看護専攻職員
内容：獣医療における内科学セミナー
教育内容との関係性：動物看護師養成コアカリキュラム科目対応に関する内容
企業等との連携内容：専門家からの最新技術の習得

②指導力の修得・向上のための研修等
研修名「Googleワークスペース研修」（連携企業等：株式会社STスマイル）
期間：2025年7月1日（月）～8月31日（日）　eラーニング　　対象：教務職員
内容：Googleワークスペースの機能（チャットやGoogleなど）やAIなどを学び、業務の中で活用することで、業務効率化、教務質向上を目的とする。

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等
研修名「日本獣医内科学ｱｶﾃﾞﾐｰ学術大会」（連携企業等：一般社団法人 日本獣医内科学アカデミー（JCVIM））
期間：2027年2月20日（土）～21日（日）　　対象：動物看護専攻職員
内容：獣医療における内科学セミナー
教育内容との関係性：動物看護師養成コアカリキュラム科目対応に関する内容
企業等との連携内容：専門家からの最新技術の習得

②指導力の修得・向上のための研修等
研修名「教育DX、AI活用推進のための動画作成及びAL実践研修」（連携企業等：株式会社STスマイル）
期間：2026年8月20日（木）～21日（金）　　対象：教務職員
内容：全4単元（1.講義の動画化、2.小テストのAI生成、3.AL・PBL型授業設計、4.模擬授業実践と定着）を通じて「未経験でも明日から必ず実践できるアクティブラーニング（AL）を習得する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
当校の教育理念は、高度な技能技術を身に付け、人間性豊かな永久戦略となる人財を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現する為に必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	①教育理念・育成する人材像等は定められているか ②学生・保証人（保護者）に対して教育理念等を明文化し、周知しているか ③教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか ④各学科の教育目標、育成する人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか ⑤各学科の職業教育の特色は明確になっているか
（2）学校運営	①教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針を教職員に周知しているか ③運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか ④運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。有効に機能しているか ⑤組織機能図があるか ⑥運営会議が定期的に開催されているか ⑦教員の指導力育成等資質向上のための取組みが行われているか ⑧専攻分野に係る実務に関する研修等を教員の業務経験や能力、担当する授業や業務に応じて計画的に取組みが行われているか ⑨人事に関する制度を整備しているか ⑩給与に関する制度を整備しているか ⑪情報システム化等による業務の効率化が図られているか（情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか）

（3）教育活動	①教育目的および育成する人材像に基づいた教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、教職員および学生等に周知しているか。 ②教育目標および育成する人材像に基づいたディプロマポリシーを明示し、教職員および学生等に周知しているか ③教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルの設定や必要な学習時間が確保されているか ④講義および実習に関するシラバスは作成されているか ⑤シラバスあるいは講義要項（コマシラバス）などが事前に学生に示され、授業で有効活用されているか ⑥学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか（学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか） ⑦評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか ⑧カリキュラム作成の際、複数のメンバーによるカリキュラム作成やカリキュラム作成委員会等の形で、作成したカリキュラムの検証が行われているか ⑨カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか ⑩キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑪関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか ⑫成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑬専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携した科目について、学生の学修成果の評価を行っているか ⑭資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
（4）学修成果・教育成果	①就職率の向上が図られているか（結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか） ②学生の就職に関する目標が、教職員に共有されているか ③学生の就職活動に関する記録がなされているか ④就職実績を公表しているか ⑤資格取得率の向上が図られているか ⑥資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか ⑦資格・検定・コンペ結果に関して検証・報告がされたか ⑧資格・検定・コンペの結果（合格者数・合格率）を公表しているか
（5）学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか（またそれは学生や保証人（保護者）に周知されているか） ②奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ③学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口の設置やカウンセラーを配置しているか ④学生の生活環境への支援は行われているか（学生のアパート探しなど、住環境への支援体制はあるか） ⑤保証人（保護者）との計画的な相談会・面談を行っているか ⑥卒業生への就職支援体制を整備しているか
（6）教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか（講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか） ②教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか ③施設・設備の点検、補修・修繕等は定期的にまたは適宜行っているか ④学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ⑤防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか ⑥防災・防犯設備（非常灯・消火器・警備システム等）が整備・点検されているか ⑦定期的に防災訓練を実施しているか
（7）学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正且つ公正に行われているか（社会人、留学生等、多様な学生を受入れているか） ②入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、教職員および学生等に周知しているか ③学校説明会等による情報提供を行っているか（育成する人材像、目指す資格・検定・コンペ、学費・教材費等の情報など）
（8）教育の内部質保証システム	①ハラスメント等に関する規程を整備し適切に運用しているか ②学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか ③個人情報保護規程が文書化されているか ④自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか ⑤自己点検・評価の結果に基づき改善計画を策定したか ⑥学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか ⑦教育活動に関する情報公開が適切になされているか ⑧自己点検評価結果を公開しているか ⑨学校関係者評価結果を公表しているか
（9）財務	①年度予算・中期計画が策定されているか ②予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか ③財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか
（10）社会貢献・地域貢献	①教育資源（教職員の出張講座等）や施設を活用した社会貢献･地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

令和6年度実施の自己点検結果に基づく学校関係者評価より、学生支援、特に在学時の支援にて、担任以外に学生のメンタルヘルスについて相談できる窓口整備について提言を受けた。今後は、メンタルヘルスについて相談できる窓口整備と県や市町村の心療医療期間のリストを提示するなど、学生支援の充実を図ることとする。学校関係者評価結果に基づく改善改革を今後も推進する。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
喜納　保	WOLVESHAND 沖縄事務局	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	企業等役員
翁長　朝	財団法人沖縄こどもの国　動物園課　課長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	団体職員
槇本　峰	ミライノ合同会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	企業等役員
周本　剛大	琉球動物医療センター　院長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	企業等役員
大城　大樹	メイクマン浦添店　店長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	企業等役員
山城　徹美		令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）~~学校関係者~~評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ）・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　）　）

https://kbcgroup.ac.jp/pet/
公表時期：令和8年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資する事。その為に、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題等学校全体に関する情報を分かり易く示す事。
②又、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼につなげていく事。
③情報の公開を通じて学校の教育の質の確保と向上を図る事を目的とする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	①沿革　②学校の特色・教育理念　③校長挨拶　④所在地、連絡先
（2）各学科等の教育	①募集学科・定員　②入学方法　③カリキュラム　④目標とする資格・検定 ⑤資格・検定実績　⑥就職状況
（3）教職員	①教職員紹介
（4）キャリア教育・実践的職業教育	①就職サポート
（5）様々な教育活動・教育環境	①学校行事
（6）学生の生活支援	①各種サポート　②学生の声
（7）学生納付金・修学支援	①学生納付金　②学費免除制度、奨学金
（8）学校の財務	①収支計算書、貸借対照表、監査報告
（9）学校評価	①自己点検・評価　②学校関係者評価
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ）・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　）　）

https://kbcgroup.ac.jp/pet/
公表時期：令和8年7月31日

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程　動物看護・管理学科（3年制）　動物看護専攻）令和8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生命倫理・動物福祉	働く犬について理解を深め、人と動物の関係を学ぶ	1通	30	2	○			○			○	○
○			動物形態機能学Ⅰ	小動物の体の構造と機能を理解する	1前	30	2	○			○		○		
○			動物形態機能学Ⅱ	小動物の体の構造と機能を理解する	1後	60	4	○			○		○		
○			動物行動学	犬の行動学を学び、適正使用と正しいしつけを理解する	1通	30	2	○			○		○		
○			動物愛護・適正飼養関連法規	動物や獣医療に関連する様々な法規について学ぶ	1通	15	1	○			○		○		
○			動物看護学概論	動物看護学倫理・概念、動物看護過程について基本を学ぶ	1通	30	2	○			○		○		
○			動物感染症学Ⅰ	犬・猫に寄生する寄生虫について理解し予防と看護に活かす	1前	45	3	○			○			○	
○			公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し社会一般への疾病予防を目的とする	1通	60	4	○			○		○		
○			動物内科看護学Ⅰ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な知識を学ぶ	1通	45	3	○			○			○	
○			愛玩動物学	犬・猫以外の小動物について適正飼育と主な疾患を理解する	1通	60	4	○			○		○		
○			人と動物の関係学	犬・猫の新生子から老齢までの各ステージの総論を学ぶ	1通	30	2	○			○		○		
○			動物内科看護学実習Ⅰ	動物看護の基礎知識と手技の習得を目標とする	1通	60	2			○	○			○	
○			動物愛護・適正飼養実習	愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する	1通	60	2			○	○		○		
○			動物看護総合実習Ⅰ	動物病院で看護実践を学び、病院内業務の補助を行う	1後	60	2			○		○			○
○			志学Ⅰ	人間性・職業教育を通して、社会人としてのより良い生き方主体的に考える	1前	15	1	○			○		○		
○			ヒューマンスキル	人間性・職業教育を通して、社会人としてのより良い生き方主体的に考える	1通	15	1	○	○		○		○		
○			就職実務Ⅰ	基礎学の問題演習を通して、社会人として必要な知識を身に付ける	1後	20	1	○			○		○		
○			ビジネスマナーⅠ	社会人マナーやビジネス系検定取得を目指し実践的に学ぶ	1前	15	1	○			○		○		
○			特別授業Ⅰ（学校）	学校行事、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	1通	108	3			○	○	○	○		
○			特別授業Ⅰ（専攻）	クラス、専攻間の親睦を深め、学校生活に必要な人間力を高める	1通	36	1			○	○	○	○		
○			動物栄養学	犬猫に必要な栄養素・ペットフードと療法食の基本的知識を学ぶ	2通	60	4	○			○		○		
○			動物形態機能学Ⅱ	小動物の体の構造と機能を理解する	2後	30	2	○			○		○		
○			比較動物学Ⅰ	日本の野生動物や実験動物の品種、飼育管理法、実践動物との関りについて学ぶ	2後	15	1	○			○		○		
○			動物看護関連法規	動物や獣医療に関連する様々な法規について学ぶ	2前	15	1	○			○		○		
○			動物感染症学Ⅱ	発生機序、原因となる病原体について理解し予防の大切さを伝える	2通	42	2	○			○		○		

（文化・教養専門課程　動物看護・管理学科（3年制）　動物看護専攻）令和8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物内科看護学Ⅱ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、実践力を修得する	2通	45	3	○			○		○		
○			動物外科看護学Ⅰ	術前検査に関する意義・外科手術前後における基本的な知識・手技を習得する	2前	30	2	○			○		○		
○			動物臨床検査学	さまざまな臨床検査の原理や方法、意識について学ぶ	2通	30	2	○			○		○		
○			動物臨床看護学各論Ⅰ	主に犬・猫の疾病罹患や看護援助を理解する	2通	60	4	○			○		○		
○			適正飼養指導論Ⅰ	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動を学ぶ	2通	30	2	○			○		○		
○			動物内科看護学実習Ⅱ	動物看護の基礎知識と手技の習得を目標とする	2通	60	2			○	○		○		
○			動物外科看護学実習Ⅰ	検体検査・生体検査に関する意義・基本的手技を身に着ける	2後	60	2			○	○		○		
○			動物臨床検査学実習	検体検査に必要な手技や機器の扱いなど実践力を修得する	2通	60	2			○	○		○		
○			動物看護総合実習Ⅱ	動物病院で看護実践を学び、病院内業務の補助を行う	2通	90	3			○		○			○
○			志学Ⅱ	社会の構造、企業の構造など、就職活動の具体的な進め方について学習	2前	15	1		○		○		○		
○			就職実務Ⅱ	履歴書、面接、マナーについて学習する	2通	30	2	○			○		○		
○			パソコン実習Ⅰ	ワープロの資格取得を目指す	2前	30	2		○		○			○	
○			ビジネスマナーⅡ	接客・接遇の基礎、社会人としてのマナーについて学ぶ	2通	25	1		○		○			○	
○			特別授業Ⅱ	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	2通	144	4			○	○	○	○		
○			動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	3後	30	2	○			○			○	
○			動物薬理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	3通	60	4	○			○			○	
○			動物外科看護学Ⅱ	主に薬剤の計算・受付・カルテや顧客管理について習得する	3前	30	2	○			○		○		
○			動物臨床看護学総論	動物看護過程の流れについて看護上の問題点を明確にする	3通	30	2	○			○		○		
○			動物臨床看護学各論Ⅱ	各々の機能障害をもつ動物に対し評価と介入を修得する	3通	60	4	○			○			○	○
○			動物医療コミュニケーション	クライアントコミュニケーションの習得を目指す	3前	30	2	○			○		○		
○			動物繁殖学	主に犬の繁殖生理を理解し性周期・疾病予防について理解する	3通	30	2	○			○			○	○
○			比較動物学（産業・実験）Ⅱ	日本の実験動物の品種、飼育管理法、実践動物との関りについて学ぶ	3通	45	3	○			○				
○			ペット関連産業概論	動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ	3通	30	2	○			○			○	○
○			適正飼養指導論Ⅱ	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動を学ぶ	3通	30	2	○			○		○		
○			動物外科看護学実習Ⅱ	術前検査に関する意義・外科手術前後における基本的な知識・手技について習得する	3前	30	1			○	○		○		
○			動物臨床看護学実習	基礎で習得した内容を基に実践能力に応用力を用いる	3通	60	2			○	○		○		
○			動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ	3通	30	1			○	○		○		
○			動物看護総合実習Ⅲ	病院内業務の補助を行い臨床現場でチーム医療の一員としての実践力を修得する	3前	45	1			○		○			○
○			パソコン実習Ⅱ	エクセルの資格取得を目指す	3前	30	2		○		○			○	

○			英会話	動物病院での英会話を学ぶ	3前	30	2		○		○			○	

（文化・教養専門課程　動物看護・管理学科（3年制）　動物看護専攻）令和8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職実務Ⅲ	履歴書、面接、マナーについて学習する。就職について考える	3前	30	2	○			○		○		
○			国家資格対策	愛玩動物看護師国家試験の範囲に入っている科目の復習、模擬試験を行う	3通	147	4	○			○		○		
○			特別授業Ⅲ	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	3通	76	2			○	○		○		
合計				42科目				127単位							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： ①31単位に当該専攻の修業年限に相当する年数を乗じて得た単位数 ②年間授業時間数の90%以上 ③成績評価すべてＣ評価以上 ④授業料等が全て納入されている事 履修方法： ①評価試験 原則として科目毎に前期・後期終了時に評価試験結果とする。 ②出席状況 ③その他 授業態度・確認テスト・課題提出・検定試験などによって実施 ※原則として絶対評価	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	26週